



新たな活動を充実・発展

公益社団法人 日本測量協会

会長 清水 英範

ここ数年、コロナ禍での活動継続への対応等に追われ、協会として新機軸の活動を企画し、実行するだけの十分な余裕がありませんでした。しかし、会員の皆様のお力をお借りしながら、少しずつ新たな活動を立ち上げています。そのうち二つの活動を紹介させていただきます。

第一に、村上真幸副会長が中心となって進めている自主研究会「測量近代化研究会」です。公共測量の「作業規程の準則」には、新技術に対応するべく拡充されてきた過程で過度に複雑化してしまった等、改善すべき課題も少なからずあるように思います。研究会はこれらの課題を整理し、準則としてのあるべき姿を具体的に提示しようとしています。当協会は日本学術会議から協力学術研究団体に指定されている、いわゆる学会でもありますが、これまで自主研究の取り組みは手薄でした。研究会の活動が当協会の学会機能の強化に繋

がることを期待しています。

第二に、瀬戸島政博副会長が中心となって進めている「空間情報総括監理技術者をめざす人のための技術士取得支援セミナー」です。空間情報総括監理技術者は、当協会が認定する最も重要な資格です。当協会では、この資格試験において、技術士（または博士）であることを受験のための必須要件の一つとすることを決め、2026年度から実施する予定です。当セミナーはこれを受けて企画したものです。技術士資格を有する測量士の増加、空間情報総括監理技術者の社会的地位の一層の向上に繋がることを期待しています。

今年は、これら新たな活動を充実、発展させていくとともに、測量界への時代や社会の要請を踏まえ、当協会の活動全般のさらなる再編・強化に努めていきたいと思っております。引き続き皆様のご理解とご支援をお願いいたします。